

## 第1回TIS会議 議事録

日時：2009年7月4日（土）19:00-21:00

場所：東京ステーションコンファレンス502号室（東京駅さピアタワー内）

出席者：川上紀明、伊東学、宇野耕吉、竹下克志、柳田晴久、松本守雄、南昌平、  
渡辺航太、辻 太一、藤本

### 1. 本研究の概要の確認

- (1) 脊柱変形由来の胸郭不全症候群の実態調査
- (2) レトロスペクティブにデータ収集。目標は100例以上。
- (3) 海外のデータとの比較、分析。
- (4) 2010年3月に報告書を厚生労働省へ提出する。(必須)

### 2. アンケート案の内容確認と訂正点について

- (1) 症例が該当施設を受診した期間については過去10年間として症例を集め、調査をする。
- (2) 症例の年齢の下限は特にもうけない。上限はしいて決定しないが、高齢者の肺線維症など疾患が合併したものは除外すべき。
- (3) 手術にたどり着くまでの期間(=natural history)のデータについて。  
症例の収集では治療歴も記載する場所があるので、そこに手術をしたものは記録しておいてあとで探し出しやすいようにしておく。後日別の検討で必要になる。
- (4) 対象はコブ各100度以上とし、診断は問わない。

### 3. 協力依頼先について

- (1) 全国のこども病院・肢体不自由施設を中心とし、その小児科と整形外科両方の部長宛とする。
- (2) 各地区担当者が担当地区の送り先を選び出す。大学病院へ送付するかどうかは地区担当者の判断に任せる。地区担当は以下とする。

伊東：北海道

竹下：東北（両角先生や山崎先生にも相談）、静岡

南：千葉、茨城、栃木、山梨

松本（渡辺）：東京、神奈川、埼玉、群馬

川上（辻）：中部

宇野：近畿、中国、四国

柳田：九州

### 4. アンケート回収とデータ収集方法について

地区担当から提出された施設にアンケート用紙を送付する。その結果に基づき、地区担当者が個別にアンケート提出施設に更に具体的個別データの提出を働きかける。

### 5. 今後のスケジュールについて

2010年3月に報告書を厚生労働省へ提出することが必須なので、それから逆算して以下の予定とする。

- ・ アンケート用紙の訂正・委員各位による確認 7月12日（日）
- ・ アンケート発送先の選出・報告 7月12日（日）
- ・ アンケート返信締切 8月31日（月）
- ・ アンケート集計 SRSまで
- ・ アンケート集計後、各委員がデータ収集
- ・ データ収集の事務局（名城病院）報告
- ・ 報告書作成着手 2010年2月
- ・ 報告書完成 2010年3月

### 6. 今後の会議予定

今後2回の会議を予定している。次回は12月、次々回は3月前半の予定。日程としては土曜の夜の時間帯とする。

以上

## 第2回TIS会議 議事録

日 時：2009年12月26日（土）17：00－19：00

場 所：東京ステーションコンファレンス 403号室（東京駅サピアタワー内）

出席者：川上紀明、伊東学、宇野耕吉、竹下克志、柳田晴久、松本守雄、南昌平、  
渡辺航太、辻 太一、藤本

### 議題

#### 1. 肋骨癒合を合併した先天性側弯症の報告－報告症例のまとめ

- 1) 全国から報告された全国で205症例が登録された。
- 2) 文献による過去の海外の報告が紹介された。
- 3) 今回、登録された症例と海外文献等を考えると、肋骨異常のタイプ分類が今後の課題となる。
- 4) 自然経過と悪化因子の検討を行ったところ、205例中95例が以下の条件に該当した。

#### 【Inclusion Criteria】

- ①2年以上、経過観察をしている。
- ②10歳未満。
- ③初診後、2年以上手術をしていない。
- ④単純X線写真で評価が可能である。

#### 2. 科学研究費の割り当て

- 1) 現在登録の7施設に21年度の研究費、1施設約30万円を配分する。
- 2) 座高計を登録施設のうち北海道大学、東京大学、神戸医療センター、名城病院に名城でまとめて購入して配布する。

#### 3. 2010年度科学研究申請と今後の研究方法

1) 22年度、23年度の2年間にわたり研究費が継続されるので、肋骨癒合症例の自然経過のさらなるデータ収集と、そのために新メンバーを追加した。またメンバーがそれぞれのテーマを持って、更なるstudyができるよう収集したデータを整理して活用する。

2) 高度側弯変形のTISの検討

3) 研究会の開催

今後は研究会を開催し、外国人を招聘する、研究発表をするなど、成果を還元したい。

#### 4. その他

次回の会議は2010年3月27日（土）午後5時から7時、東京ステーションコンファレンス401号室で開催する。

### 第 3 回 TIS 会議 議事録

日 時：2010 年 3 月 27 日（土）17：00－19：00

場 所：東京ステーションコンファレンス 401 号室（東京駅サピアタワー内）

出席者：川上紀明、伊東学、竹下克志、宇野耕吉、柳田晴久、松本守雄、南昌平、  
渡辺航太、辻 太一、藤本

#### 1. 2009 年度の研究成果：

集まった症例を分析しスライドにまとめた。その結果を 2010 年 3 月 12 日平成 21 年度難治性疾患克服  
研究事業 研究奨励分野 研究成果報告会において辻先生が報告した。来年度も継続して研究費が認可  
される可能性が大きい。

#### 2. 来年度に向けての研究課題と検討

研究費が支給されたらすぐに対応できるように、メンバー各自が自分の研究テーマを設定する。例とし  
て以下のようなテーマが考えられるが次回の会議までの宿題とする。

##### ■先天性側弯症と肋骨異常

(ア) 0-5 歳における肋骨癒合を伴う先天性側弯症の自然経過

- ① 悪化するタイプと悪化しないタイプの見極め
- ② どのタイプをいつ手術治療と判断するか

(イ) 0-5 歳、5-10 歳、10 歳以後の 3 群における悪化の差

(ウ) 今後 2 年間の継続において症例を定期的観察してその悪化を評価

- ① 単純写真と CT 画像の評価
- ② 呼吸機能の評価
- ③ MRI による呼吸状態の評価

■症候性または、特発性側弯症の EOS における胸郭変形とその病態。

■10 歳以下で行われた高度悪化症例の手術治療の現状と手術成績

#### 3. 来年度の研究許可が出次第、本会議の招集と研究のテーマ決定など

次回の TIS 会議は側弯セミナー時、6 月 5 日（土）午前 7 時から 8 時とする

以上

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）

脊柱変形由来の胸郭不全症候群の実態調査と  
その診断・治療方針の検討

総括研究報告書

発行 平成22年3月31日

脊柱変形由来の胸郭不全症候群の実態調査と  
その診断・治療方針の検討班  
研究代表者 川上紀明

国家公務員共済組合連合会 名城病院 整形外科 脊椎脊髄センター  
〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-3-1  
Tel : 052-201-5311（内線5279）

